

4 情報発信と交流の時代

マイカーの普及、高速交通網の整備、IT革命の進行などにより、人々の生活圏はますます広域化し、家族や地域社会などの人間関係の希薄化、孤立化が進んでいます。一方、サービス経済化や共働きの進行などにより、人口の都心回帰もみられます。

人と人の交流の場や機会の充実、多様なコミュニティの形成と共同性の回復など、ポスト情報社会への取組みとともに、キラリと光る個性的なまちづくりを進め、積極的に情報発信を行い、選んで住みたくなる魅力あるまちづくりが課題です。

5 安全・安心な地域づくり

近年、地震活動が活発化するとともに、異常気象による集中豪雨などの被害も各地で相次いでいます。また、先進欧米諸国のなかでトップの自殺率(世界5位)、諸外国と比べて多い歩行者交通事故(幼児の死因の1位)、しばしば報道される幼児虐待死を含む子どもへの犯罪(件数は大幅に減少)など、生命の安全に対する不安が高まっています。

災害に強いまちづくりなど地域防災体制の強化とともに、安全な交通環境の整備、地域防犯体制の充実が課題です。

6 新たな協働の時代へ

様々なグループ活動やボランティア活動、まちづくり活動などへの住民の参加意識が高まってきています。

健康・福祉、教育・文化、環境・景観、防災・防犯、産業活性化など、町民主体のまちづくり活動と行政が力をあわせた協働のまちづくりが課題です。

7 地方分権の時代へ

地方主権(地方分権)の時代を迎え、住民のまちづくり意識の高まりと行財政改革が進むとともに、今後、市町村への権限移譲や財源移譲が進むことが予想されます。

町民がまちづくりの主役として活躍するとともに、厳しい財政状況のもとで、町職員の意識・知識・技術を高め、町民とともに計画・政策立案し、相互に連携を図り、効果的・効率的に行財政運営を行うことが課題です。

第4章 第4次総合計画・基本構想の達成状況と課題

平成13～22年度の第4次吉岡町総合計画の取組の達成状況と、次期総合計画の課題は次のとおりです。

1 「まちの将来像及びまちづくりの基本方針」の達成状況と課題

第4次吉岡町総合計画の将来像「人と自然が共生した 住みよいまち よしおか」については、県都前橋市に近いという地の利を生かした道路整備、自治会制度の発足、児童・高齢者・障がい者福祉の充実、保健センターの建設、学校施設と学校教育の充実、文化の継承と町民総スポーツの振興、商業施設の誘致などの計画的な取組みが進み、実現が図られてきました。

しかし、職員や町民に総合計画が理解されているとは言えず、町民の意向を反映したわかりやすい計画づくりや時代の変化に合わせた方向付け、キラリと光る個性的な計画づくりが課題です。

2 「将来の人口・世帯規模」達成状況と課題

第4次吉岡町総合計画策定時における平成22(2010)年の将来人口・世帯規模は、「人口19,000人、世帯数6,500世帯」となっています。これに対し、直近の国勢調査を用いた試算では「19,507人、6,170世帯」と予測され、人口は目標を超え、世帯数は目標を下回っています。(平成22年国調速報値：19,802人、6,523世帯)

県都前橋に近い地の利、県の大型幹線道路の整備などにより、吉岡町が住みやすい町として認められ、住宅立地が進み、子育て世代が増加したことによるものです。

今後は、交通環境の整備や住環境の整備、若い世代が住みたくなる魅力的なまちづくりなどが課題です。

3 「土地利用の方向」の達成状況と課題

「市街地ゾーン」「新市街地ゾーン」「農地・集落地ゾーン」「工業系ゾーン」「緑地ゾーン」「拠点」に分けて定めた土地利用については、未線引き⁶であるため、民間主導で急速に宅地化が進み、下水道区域外の開発や農住混在地域などの問題が生じています。また、大型店舗などの進出が進んだため、優良農地が減少しました。拠点整備では、駒寄スマートインターチェンジ設置、古墳公園整備、道の駅の設置などが進みました。

今後は、用途地域内における宅地化の促進、新市街地ゾーンの見直し、国道17号前橋渋川バイパスや県道高崎渋川バイパス(整備中)沿道の一部への産業系土地利用の促進、工業団地の拡充などが課題です。

*6 未線引き：都市計画区域を市街化区域と市街化調整区域に分けることを線引きするという。未線引きとは、これがなされていない状況。

4 「まちづくりの分野別構想」の達成状況と課題

学童保育施設や教育施設、保健センター、幹線道路、下水道、公園の整備、道の駅よしおか温泉などの整備が行われ、また介護保険制度の開始など福祉・医療の面で充実が図られました。一方、厳しい経済状況による税収の落ち込みと国の財政悪化から、公共投資が遅れています。

人口増加や住民ニーズの多様化、地方分権などに伴い、自治体事務事業の増加が進む一方、職員は削減されており、今後はより一層の計画的な施策の推進が課題です。

(1)「健康で生きがいをもって暮らせる福祉社会」の達成状況と課題

地域福祉の推進、学童保育施設の整備、介護保険制度の創設、保健センター建設と保健活動の充実などが図られましたが、出生率の低下、不況に伴う国民健康保険税の収納率低下、医療費の増大などが生じています。

若者が普通に結婚し、子どもを持てるような地域社会の形成、町民の健康づくりや介護予防活動の促進、自治会の地域福祉活動や福祉ボランティア活動の充実、国民健康保険制度等の安定的運用などが課題です。

(2)「魅力的な都市空間の創造」の達成状況と課題

国道・県道と幹線町道の整備、高い水準の下水道整備、南下古墳公園の整備、過去の土地改良事業などを活かした住宅立地が進み、人口増加率も県下一となっています。一方、財政の悪化などにより、公共事業は計画年度が後退し、新駅設置の取組みは進んでいません。

今後は、自然・田園環境と調和したコンパクトで魅力的なまちをめざし、新駅設置と良好な住宅立地の誘導、駒寄スマートインターチェンジ周辺の道路整備と大型化の促進、国道17号前橋渋川バイパスと県道高崎渋川バイパス(整備中)沿道の土地利用の見直し、都市計画の区域区分設定の検討、公園等の公共施設の効率的な維持管理などが課題です。

(3)「快適で安全な住みよいまち」の達成状況と課題

消防団詰所の整備、消防車両の更新、女性防火クラブの結成、交通安全・防犯対策、防災情報体制の整備、ごみ回収体制の整備・充実などが進む一方、消防団員の確保、環境対策の強化などが課題です。

今後は、安全・安心対策を継続するとともに、太陽光・風力・水力発電に取り組んだ実績を活かした二酸化炭素の削減対策の充実、自家菜園の指導・支援、船尾滝・九十九谷などの自然の有効活用などが課題です。

(4)「豊かな心と文化を育む生涯学習の推進」の達成状況と課題

冷房設備など学校施設の整備・充実、文化センター・図書館の有効活用、文化協会・体育協会の活発な活動など、生涯学習体制の充実が図られてきました。

今後は、人口増加に対応した学校施設の整備、学校給食センターの運営方法の検討、文化センター・図書館の運営改善、自主的な文化・スポーツ活動の促進、地域間交流・国際交流の推進などが課題です。

(5)「活力ある産業基盤づくり」の達成状況と課題

吉岡バイパスの開通による大型店の進出、道の駅よしおか温泉の建設、よしおか温泉リゾートピア吉岡の改修などが進む一方、農林業の衰退及び工場立地の停滞が問題となっています。

今後は、若者の就業の安定化や団塊世代の就労機会の確保、道の駅よしおか温泉の有効利用、駒寄スマートインターチェンジの大型化、国道17号前橋渋川バイパスや県道高崎渋川バイパス(整備中)を利用した企業誘致や観光の環境づくりなどが課題です。

(6)「町民と行政の連携による計画の推進」の達成状況と課題

広報誌・ホームページなど情報発信の充実、パブリックコメント制度^{*7}の導入、行政区制度から自治会制度への移行、町附属機関などへの公募による選任(10%以上)、ボランティア活動の支援など、町民と行政の連携体制の強化が図られるとともに、厳しい財政情勢のもとで、大幅な職員の削減と業務の効率化を図ってきました。

今後は、災害・防犯・福祉等の専門委員会設置など自治会制度の充実強化に向けた支援、町内のボランティア団体の組織化と新たなボランティア活動の支援、職員の人材育成、業務委託の更なる推進など健全な財政運営、広域行政の充実などが課題です。

*7 パブリックコメント制度：パブリック(大衆)のコメント(意見)の意味で、まちづくりの計画や条例などの原案を町民に公表し、寄せられた意見を考慮して最終決定します。